

令和5年度 社会福祉法人こうち福社会事業計画（案）

障害福祉サービス事業 : ライフ・ステージ あおぞらセンター（定員 30 名）
ライフ・ステージ 蒼空舎（定員 40 名）
ライフ・ステージ 第2 あおぞら（定員 20 名）
ライフ・タウン あおぞらホーム（定員 99 名）
ライフ・タウン 蒼空舎（定員 9 名）
相談支援事業 : ライフ・サポート あおぞら

いきいき工房 クッション

ライフ・ステージ あおぞらセンター

サービス管理責任者：林 愛佳

1、人員について

メンバー 14 名：支援員 2 名（いきいき工房内兼任）

袋とじ、袋縫い＝職員対応

シーラー掛け、計量、袋詰め、ほぐし、オイルパッド箱詰めの工程を利用者全員で行っていく。

- ・作業レベルへの継続的な支援を行っていくと共に、生活支援にも目を向けて取り組んでいく。
- ・大勢のメンバーと作業する事が困難となったメンバーに応じて個室を利用し、落ち着いた空間を作る。様子を見ていき、メンバーの状態に配慮した対応を行っていく。また、強度行動障害研修で得た支援方法を実践していく。
- ・出来上がった製品を確認する為に、支援員が袋とじを行う。
- ・ほぐし作業は吸収材となる紙の裁ち落した固まりを1枚1枚ほぐしていく作業である。初めて作業を体験されるメンバーも取り掛かりやすく、作業の導入時のストレス軽減に有効である。

2、メンバー活動

- ・様々な感染症対策をするため、毎日の検温、手洗い、うがい、消毒を習慣にし、日々の体調管理を行い健康な生活を送れるよう、見守り、声掛けを行う。また、風邪症状がある場合にはマスク着用を促す。
- ・栄養バランスの良い昼食を提供し、毎日作業に取り組める体づくりを目指す。個々に応じ食器や食事の形状に気を付けていく。
- ・歯の健康を保てるよう、歯磨きの際、見守りを行い必要に応じて仕上げ磨きを行っていく。
- ・社会人としての身だしなみを心掛けるよう、髭剃りや散髪、季節や場面にあった服装について声掛けを行う。

- ・こまめに換気を行い、マスク、白衣、作業帽子の着用を徹底し、ホコリ対策に力を入れていく。
- ・毎朝の30分の散歩と、月に2～3回の体操教室や歌の時間も含む余暇活動を充実させ、作業と休憩のメリハリをつけながら、より良い作業環境を整えていく。
- ・各自の作業出来高が日により大幅に違うこともある為、メンバー同士の連携がスムーズに行く様に支援を行い、作業効率を上げていく。

3、受託製造

- ・ 納入先…(株)環境機器
- ・ 製造 —— すいとるS、シート ——
 不織布をミシン縫いし、袋返しをする。
 吸収材Aの固まりをほぐす。
 吸収材AとBの材料を計量し、混ぜて袋詰めする。
 ミシンで袋とじをして箱詰めをする。

※ 納品 (すいとるS+シート) 令和4年度分

4月	5月	6月	7月	8月	9月
10箱 (10+0)	15箱 (15+0)	11箱 (10+1)	2箱 (2+0)	15箱 (12+3)	6箱 (6+0)
10月	11月	12月	1月	2月	3月
12箱 (12+0)	29箱 (10+19)	44箱 (37+7)	30箱 (25+5)	39箱 (32+7)	0箱 (0+0)

—— すいとるオイル ——

- 小箱を組み立てる。
- オイル材料を数える。(2L=14個、5L=33個)
- 2Lは3個ずつ4列並べて中央に2個、
- 5Lは5個ずつ6列並べて中央に3個詰める。
- 箱詰めする。

※原料高騰により資材の変更があり中身の形状が変わる予定がある。

※ 納品 (オイル2L+5L) 令和4年度分

4月	5月	6月	7月	8月	9月
14箱 (0+14)	42箱 (10+32)	8箱 (6+2)	30箱 (12+18)	27箱 (10+17)	30箱 (13+17)
10月	11月	12月	1月	2月	3月
24箱 (18+6)	29箱 (15+14)	5箱 (0+5)	13箱 (13+0)	7箱 (7+0)	0箱 (0+0)

—— すいとるL、PEシート ——

ビニールのシーラー掛けをする。
折り目をつけ丁寧に折っていく
確認をして箱詰めする。

(すいとるL)		※ 納品		令和4年度分	
4月	5月	6月	7月	8月	9月
0箱	0箱	0箱	0箱	0箱	0箱
10月	11月	12月	1月	2月	3月
0箱	0箱	9箱	4箱	0箱	0箱

(PEシート)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
0枚	0枚	0枚	0枚	0枚	0枚
10月	11月	12月	1月	2月	3月
0枚	0枚	0枚	0枚	0枚	0枚

4、留意

資材仕入れに関しては、(株)環境機器から入ってもらっている。生産に手間がかかる資材もある為、早めの発注が必要である。特にクッション資材Aのほぐしは、実習生の作業の取り掛かりにも有効であったりする為、抜かりない発注を心掛ける。

毎年、10月以降に鳥インフルエンザなどの流行に伴い、受注量が多くなる。環境機器と連絡を密にとり、年間を通して在庫確保ができるよう依頼していきたい。また、11月～3月はいきいき工房内の作業が繁忙期を迎えるため納品時期に間に合うよう作業日程の組み立てを行っていく。

吸収材の取り扱いの安全性データシートを基に作業を進めていく。

いきいき工房 菓子袋詰め、薬味入れ、乾燥こんにゃく

ライフ・ステージ あおぞらセンター

サービス管理責任者：林 愛佳

—— 菓子袋詰め ——

1、人員について

- メンバー6名 (いきいき工房4名、あみおり工房2名兼務)
- 支援員2名 (いきいき工房、あみおり工房兼務)
- ・センター2階全体で協力し作業に取り組んでいく。

2、メンバー活動

- ・食品を取り扱っているため別室で作業をしていく。
- ・ネット帽子、白衣を着用し、手洗いやうがい、消毒は元より室内に入る前の埃取り（ローラー）、作業専用のスリッパに履き替えて行う。また、衛生面全般として爪切りや入浴の声掛けも行っていく。
- ・少人数で作業は行っているが、欠席になる利用者もいるため2階全体の中でできるメンバーを育成していく。

3、内職作業

①ミレービスケット×芋ケンピ袋詰め

ミレービスケット 50g と芋ケンピ 50g を計量し袋詰めを行う。その後、印字付きシーラーで賞味期限を印字し袋とじを行い、金属探知機にかけ 20 袋ずつ 1 箱へ梱包していく。箱にはラベラーで賞味期限の印字シールを貼る。

②土佐の生姜飴袋詰め

個包装された生姜飴を 12 粒ずつ袋に入れる。その後、印字付きシーラーで袋とじを行い、金属探知機にかけ 20 袋ずつ 1 箱へ梱包していく。箱にはラベラーで賞味期限の印字シールを貼る。

③納品…製品の出荷状況により変動があるので高知県特産品販売の担当者と電話や FAX でやりとりしていく。

④留意…全体の作業内容を確認し納品日に間に合うように作業日の設定をしていく。開封したお菓子は湿気や異物混入防止のため、その日で仕上げるようにしていく。最終計量、シーラー、賞味期限印字、金属探知機、梱包作業は支援員が最終の点検をしながら作業を進めていく。

賞味期限の印字間違いをしないよう、支援員 2 名で原料、シーラー、ラベラーの確認していく。

・納入先…高知特産品販売

・納品

令和 4 年度分参考

4月～10月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ミレービスケット ×芋ケンピ	6006 袋	3598 袋	1199 袋	2409 袋	6020 袋	2391 袋	2396 袋
土佐の 生姜飴	0 袋	0 袋	0 袋	889 袋	0 袋	2662 袋	905 袋
11月～3月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
ミレービスケット ×芋ケンピ	4788 袋	2374 袋	2418 袋	1198 袋	3,600 袋	38,397 袋	
土佐の 生姜飴	903 袋	904 袋	0 袋	904 袋	0	7,167 袋	

—— 薬味入れ ——

1、人員について

メンバー14名（いきいき工房内兼務）・支援員2名（兼務）

薬味は〈しょうが・にんにく・わさび〉3種類の組み合わせと〈しょうが・にんにく〉2種類の組み合わせの場合がある。各注文数のみ袋詰め作業を行い、作業をスムーズに行っていく。

2、メンバー活動

- ・食品を扱う自覚を持ち、衛生面には特に配慮する。
- ・手洗い、うがいの励行、帽子・マスクの着用の習慣化、また作業開始前には必ず作業台を拭き、薬味入れに必要な道具を準備する。

3、内職作業

①納入先…パステムマツザワ

②製造…薬味を小袋に入れる作業。「にんにく3：しょうが3」または、「にんにく2：しょうが2：わさび2」で入れる2種類の作業。

③納品…ゴールデンウィークや春休み、お盆及び年末のお中元・お歳暮商戦に向けて薬味を納める。

※納品

令和4年度分参考

4月	5月	6月	7月	8月	9月
4000袋	0袋	9000袋	6000袋	2000袋	0袋
10月	11月	12月	1月	2月	3月
2000袋	11000袋	4000袋	2000袋	2000袋	0袋

④留意…数日間の集中的な作業になるが故に、その間のクッションや箱折りの作業がストップしてしまう。薬味については、数え間違いや入れ間違いを起こしやすい為、正確に行うように声掛けをし、再度支援員が点検を行う。保管には細心の注意を払う。

—— 乾燥糸こんにゃく ——

1、人員について

メンバー1名（クッション兼務）・支援員1名（兼務）

2、メンバー活動

- ・食品を扱う自覚を持ち、衛生面には特に配慮する。
- ・手洗い、うがいの励行、帽子・マスクの着用の習慣化、また作業開始前には必ず作業台を拭き、乾燥糸こんにゃくの道具を準備する。

3、内職作業

①納入先…生協等 *仕入れはトレテス熊本

②製造…袋の表側にパッケージラベル、裏側にはレシピと栄養成分表示ラベルを張る。直径約 5 cmの大きさに乾燥させた糸こんにゃくを6個ずつ袋詰めし、シーラーで袋とじをする。

③納品

・生協…例年春先に向けての納品は安定しているが、それ以外の月にも依頼がある場合がある。いづれにしても2～3ヶ月ぐらい前から納品依頼のFAXが入るため、計画的に製造を行う。
※令和3年度は6月に107袋の納品を行なっている。

・第2あおぞら…店舗等の販売で在庫が少なくなれば注文がある。

※令和3年度注文なし

・よさこい工房…給食での使用分、日曜日やバザー等の販売分を取りまとめて注文がある。

・個別販売…不定期にある。

④留意…原料や送料の高騰が続いているため、令和5年4月より価格改定を行う。

生協においては納品時期がおおよそ見込めていたが、「声に答えて」という企画商品である。個別購入は不定期のものなので、それにすぐ対応できるだけのセット数と糸こんにゃくの在庫は最低限確保しておく。コープしこくポータルサイトにて納品に至るまでの商品確認や発注書確認を行うこととなっている。定期的にサイトを確認し、確認漏れのないよう留意する。販売数が年々減少傾向にあり、よさこい工房や第2あおぞらでの販売、給食の利用で在庫の回転に努めている。

あおぞらカントリー 畑ばたけ

継続B ライフ・ステージ 蒼空舎

生活介護 // あおぞらセンター

支援員：宮内 知志、川村 哲也、伊東 昌彦、谷脇 豊実、井垣 英子

1、人員について

メンバー あおぞら 6人 蒼空舎 8人 計 14人

支援員 あおぞら 2人 蒼空舎 3人 計 5人

(1) メンバーについて

令和5年3月末日、利用者1名退所。

事業所内で利用者の移動あり。

(2) 活動内容

ニラ調整作業・きくらげ栽培・原木椎茸栽培・花卉栽培・露地栽培・果樹栽培

(3) 支援員のスキルアップ

- ・メンバーに対し安全面を一番に配慮する。的確な支援を行えるよう一人一人の特性を理解し、日々の情報を職員間で共有し支援していく。
- ・メンバーの特性を活かし、適切な生産活動の場を提供できるよう支援員の間で話を持ち、生産性が上がるよう努め、工賃向上を目指す。
- ・特別支援学校の実習生を積極的に受け入れ、卒業後の進路になるように、受け入れ態勢を整えて、実りある実習期間となるように配慮していく。

2、利用者活動

メンバー1人1人が有意義な日中生活を送れるよう、次の事に気をつけて支援していく。

- ・個別に行う作業よりも、協力して行う作業が多いので、協調性を意識できるようにする。
- ・現在も続くコロナの影響も加味し、出勤時、退所時、作業中の衛生面、体調面を気に掛ける。また、畑での作業中、特に暑い時や寒い時は、十分に配慮する。
- ・道具などを使う場合は、いつも以上に周りに気を配るようにし、取扱いに十分気をつける。また、正しい使い方を教えて行く。
- ・作業が分からない時の質問や作業が終わってからの報告を徹底する。
- ・個々に見合った目標を持たせ、スキルアップを目指す。
- ・生産活動を通し、人前での礼儀、挨拶など、社会性を身につける。

3、農業生産

① 露地栽培

- ・サツマイモ・白菜・大根・人参・玉ねぎ・赤しそ・ニンニク(試験栽培)・生姜(試験栽培)をメインに栽培をする。
- ・種苗に関しては前川種苗・カダヤシード等で購入する。
- ・種苗以外の資材は、ネットショップやホームセンターが比較的安価で購入できるので計画的に購入する
- ・販売に関しては、既存の販路(あおぞらセンター・第二あおぞら・日曜日・JA・直販市等)を活用し無駄がないよう売っていく。
- ・他の事業の進捗状況を考慮しつつ、現在借りている圃場の数を削減、検討していく。

② 果樹栽培

主に加工用として栽培。伊野町八田地域に桃・梅・柿・文旦を植栽。今後、柚子を植栽予定。

また、西ノ谷のハウスにて、水晶文旦・レモンを栽培する。

果樹栽培に関して栽培・管理に関し未熟なことが多い。少しでも早く技術と知識を身に付けることができるよう努めていく。

③ 花卉栽培

職員2名（露地栽培と兼務）で活動を行っていく。年々、気候変動の影響で生産が難しくなっている。経験を元に栽培をするだけでなく、その時期の気候を読み取り、播種時期の間隔を調節しながら栽培をしていくように心がけていくようにする。それぞれのメンバーの特性を考え、適切な作業を提供していき生産性の向上を目指していく。城西公園花壇、わんパークこうち内プランター、高知市内保育園、小中学校の花苗生産、良心市販売等の販売数を見越した生産をしていく。

本年度より高知大学朝倉キャンパスの花壇植栽に花苗を採用していただくことになり、年間2000ポットを納入する。

④ 原木椎茸栽培

・職員2名（きくらげ栽培と兼務）

令和4年度も高知県地域林業総合支援事業を受けることができ5000本の原木を購入する。今年度も支援事業が受けることができるよう努めていく。

梅雨前にはハウス内の清掃、原木移動が終わるよう予定をたて、楢木の雑菌・害虫対策を行い、10月に椎茸の発生操作をし収穫、販売をする。

メンバーの作業については、重量物の運搬が多く、メンバーの安全管理を徹底する。

近年、不安定な気候が続き、栽培管理に関し難しさを感じるようになってきているので技術向上に取り組む。

⑤ ニラ調整作業（野市青果委託）

仕上り30箱の目標に向けて、利用者5名職員3名で行っている。

野市青果さん自体も調整作業を行っており、原体の入荷量が減少しているが、ハウスを4反増やし7月以降は入荷量も増える予定になっている。常に30箱以上取り組める様に全体のスキルアップを目指していく。

資材に関しては、委託業務なので必要なものは支給してもらえらる。

※作業賃 1束10円 1箱50束5000円

⑥ きくらげ栽培

・職員2名（原木椎茸栽培と兼務）

令和4年度の販売実績及び作業に関わるメンバーも1名育ち、昨年度、540床の栽培から今年度は5月に480床、7月に480床の合計960床を栽培していく。

これにより昨年度は6月～8月までの栽培期間を本年度は10月までの栽培期間に延ばし販売に取り組む計画。

今後、作業が出来るメンバーを育てていき販路拡大や、乾燥品販売に取り組む計画も進めていく。

4、留意

現在も続くコロナ禍の影響を考え、第一にメンバーに対して最大限、安全面の配慮を行っていく。作業に対しても出来るだけ滞ることのないよう職員のスキルアップ、より効率的に作業を行なえるような環境を整備していくよう心掛ける。

よさこい工房 食品加工

生活介護 ライフ・ステージ あおぞらセンター
就労B // 蒼空舎

管理者：鎌倉 節子

コロナ禍も落ち着き、新しい生活様式がスタンダードになりつつある昨今、時代に合った方法や商品を模索し、安定した収益を上げることが出来る事業所を目指す。

そして最低賃金に見合う力量を持ったメンバーの育成と、働き甲斐のある職場を作っていく。

1 利用者について

- ① 現在就労している利用者3名の力量アップを図る。
下処理から最終製品までの工程のすべてに携われる力量をもったメンバーを1名育成する。
下処理を中心に、計量・瓶詰・ラベル貼りの精度を上げることができるメンバーを1名育成する。
下処理を中心に、袋物のラベル貼りをマスターし、新たなラベル貼りに挑戦できるメンバーを1名育成する。
- ② 必要な報告・連絡・相談ができるようにする。
- ③ 新規利用者一名を増員する。
- ④ 衛生管理および作業手順の教育を定期的に行う。

2 製造について

- ① 「製造・在庫管理システム」の有効活用による業務の効率化を図る。
- ② 商品の在庫確保のため計画的な製造を行う。
- ③ 製造計画の見える化を図る。
- ④ 衛生管理を徹底し安心安全な商品の製造と、クレームゼロを目指す。
- ⑤ 生産力の向上
- ⑥ 新商品の開発
- ⑦ 5Sの推進

3 営業活動について

- ① 積極的に商談会に参加する。
- ② 販促物を充実させ「売れ筋商品」の売り上げアップを図る。
- ③ 直接取引を増やし、顧客リストを整備していく。

- ④ 仕様変更製品（おかず味噌・佃煮・シロップ類）の販路の拡大を図る。
- ⑤ 「安心・安全」をアピールし、「こだわり商品」としての定番商品化を目指す。
- ⑥ 「製造・在庫管理システム」の有効活用。
- ⑦ 顧客情報の収集と分析
- ⑧ HP の充実
- ⑨ 企画、イベントの参加

4 課題

- ① 事務作業の省力化
- ② 製造計画の見える化
- ③ システム運用マニュアル作成
- ④ チャンスロス対策

最低賃金を目指す就労の場として機能させるために、安定した受注が見込まれる企業との取引

- ⑤ 原材料の自給率向上に向けた畑ばたけとの連携
- ⑥ 高知県版 HACCP 新第3ステージの認証
- ⑦ 食品安全マネジメントシステムの運用

あおぞらファクトリー 野菜工房

就労B ライフ・ステージ 蒼空舎

支援員：江渕 恵、横川 研、高津 いずみ

1、人員について

メンバー：16名 支援員：3名

ISO9001の力量一覧表をもとに、既存のメンバーの作業能力の向上ができるよう支援員が共通の認識を持ち支援をしていく。将来、一般就労を希望している者については就労が出来るような社会性や能力の向上を目指した支援を行っていく。ISOの取り組みをしているという自覚を各々が持ち、衛生レベル（特に手洗いや衛生的な行動に関して）の向上に努める。

現在、よさこい工房にて作業に従事している3名は、よさこい工房での作業能力の向上を目指し、支援していく。また、特別支援学校からの実習生も積極的に受け入れを行っていく。

2、利用者活動

- ・日々の体調管理を行うため、玄関での検温、消毒を行ってから入室するよう継続していく。また、体調不良がある場合には家庭やグループホームとも連携を図っていく。
- ・令和4年1月にISO9001再認証審査を終えている。支援員だけでなくメンバーにもISO9001の取り組みを理解してもらうため、手洗いの講習、掲示物の掲示を行い作業場全体での衛生面の向上に努める。
- ・納品に行けるメンバーの人材育成を目指し取り組んでいく。現在、納品作業の出来るメンバー2名は支援員と2人で行けるが、1名は育成中である。

- ・健康診断を実施し、体重過多や運動不足のメンバーがいたため、ウォーキングや体操の運動を促していく。
- ・自己評価をしてもらいながら、スキルアップを目指す。得意な作業はさらに上のレベルを目指し、苦手な作業も少しずつ出来る様に支援を行う。各メンバーの出来る作業に偏りが無いよう、幅広く作業に参加できるように支援を行っていく。
- ・祝祭日など他の部署とは違う作業日もあるが、作業に取り組む中で就労への意識を高くする。また、希望するメンバーに関しては一般企業への見学や実習などの就労へ向けた支援も検討していく。

3、作業内容

主な取引先

- ① サニーマート総菜工場：野菜下処理、冷凍・粉袋詰め
- ② 北川村ゆず王国：ゆずトリミング
- ③ やまくに：いりこ割、いりこ粉計量作業
- ④ 岡林農園：文旦果肉用下処理
- ⑤ 高知県特産品販売：ゼリーシール貼り
- ⑥ よさこい工房：生姜皮剥ぎ・スライス、文旦皮スライス

4、課題

- ・作業に特化した部署づくりを目指し、各自の作業能力の向上を目標としている。また一般就労を視野に入れ、社会人としての自覚や言葉遣いが身につくよう継続して、話をしていく。
- ・よさこい工房と連携を取り、自社製造品の下処理などを行う環境を作っていく。
- ・令和4年度は、取引先の製造中止による作業の終了や、コロナウイルス蔓延防止によるメンバーの欠席があり作業量が減少したため売上アップにはつながらなかった。5年度は、新規取引先の開拓や、サニーマート、ゆず王国、やまくに、その他作業で売り上げを確保していく必要がある。

あおぞらファクトリー あみおり工房

就労B ライフ・ステージ 蒼空舎
生活介護 あおぞらセンター

サービス管理責任者：黒沢 圭子

1、人員について

① メンバーへの支援

メンバー センター 7名 蒼空舎 15名 (内あおぞら籍3名・蒼空舎籍12名)
計 22名

支援員 センター 2名 蒼空舎 3名 計 5名

事業所内で、メンバーの入替があり、令和4年度当初からはメンバー2名増員する。

② 実習生等の受け入れ

障がい者の福祉的就労の場を提供すると共に、特別支援学校や相談機関等からの実習生の受入れも行い、就労体験の場としていき、新規利用者の受入れも積極的に行っていく。

③ 支援員のスキルアップ

メンバーへの支援については、支援員一人ひとりが障がい特性を理解し、共通認識のもとメンバーが安定して過ごせるように支援を行う。その為に、ケース会、研修等を必要に応じて計画をする。作業面においては、県内の手袋事業者との連携を継続し、技術の向上に努める。編機の運転については、主に2名の支援員で対応をする。

2、利用者活動

メンバーの作業は、大きく自主製品グループと下請けグループの2つに分かれる。自主製品については、注文に柔軟に対応をしていけるように、在庫確保に計画的に取り組んでいく。下請けについては、4月ごろより作業が始まり、夏ごろをピークに作業量が増え、短期間での納期に追われる状況が年内は続くと思われる。どちらの作業も、メンバーが幅広く作業に対応をしていけるように支援をしていく。特に、ミシン作業が担えるメンバーの育成が急務となっている。感染対策は基本的には継続をして、今後も感染者0を目指す。

3、自主製品

① 仕入れ・製造・販売

仕入価格は年々高騰しており、厳しい状況が今後も継続すると思われる。仕入先の開拓についても情報収集を行い開拓をしていく。製造する手袋の種類も増え、資材も多くなり、保管場所の確保を検討していく必要がある。

製造については、15台の手袋編み機で稼働をする。(7GM 編機 9台・7GS 編機 1台・指出し編機 2台・10G 編機 3台) 編み機の運転については、休日運転、夜間運転を実施し、在庫を切らさないように取り組んでいく。

販売については、月産平均 1800 ダース、売上 90 万円を目標に取り組んでいく。販路開拓については、顧客のニーズに応じたオーダーにも積極的に対応をすることで、新規取引先の開拓を目指す。下請け作業が落ち着く1月～3月を販売強化期間として取り組んでいく。

＜主な設置機械とメンテナンス業者＞

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| ○手袋編機 15 台 (7G 12 台・10G 3 台) | [島精機・カワムラ手袋] |
| ○オーバーロックミシン 6 台 (あ 4 台・蒼 2 台) | [岡林ミシン] |
| ○ネーム付ミシン 1 台 (蒼) | [大勝製造所] |
| ○すくい縫いミシン 3 台 (あ 1 台・蒼 2 台) | [大勝製造所] |
| ○結束機 (あ 1 台・蒼 2 台) | ○10 ダース結束機 (あ蒼 各 1 台) [島精機] |

② 商品在庫

手袋の種類が増え（現在 28 種類）、品薄状態が続いている。日々の在庫管理を徹底し、計画的な編機運転を実施し、在庫確保を行っていく。ICT を活用し、蒼空舎、センターお互いの在庫が確認できるようにする。

4、課題

- ① 原価を抑える努力をする。
 - ・不良率を抑える。
 - ・新たな仕入れ先の確保。リサイクル糸の活用。
 - ・値上げ前の一括仕入れ。
- ② 顧客管理の徹底。
 - ・納品請求業務の IT 化を検討する。
- ③ 法人ホームページのリニューアル。SNS の活用。

あおぞらカンパニー

就労B ライフ・ステージ 蒼空舎

支援員：中屋 大起

グループ就労

シーサイドホーム桂浜・つむぐ ……………メンテナンス業務

1、人員について

メンバー 4 名 支援員 1 名

委託先からの申し入れにより令和 4 年度からメンバーを 1 名減、1 名は入れ替えを行う。

それぞれ個々の目標に向けて取り組み、丁寧な取り組みを目指す。就労・業務に対しての意識向上支援を取り入れている。また必要に応じて個別に話し合いやメンタルケア等のサポートを行う。

人員体制については、急な支援員、メンバーに欠勤があっても、それを補うことができ、且つ支え合うことのできる体制づくりを行っている。また今後の状況に応じて新たな人材育成も行う。

2、利用者活動

- ・丁寧な作業を重視し、はき残し、拭き残しをなくしていけるよう支援をする。
- ・作業手順や作業場所を間違えずに慌てることなく取り組みが出来るよう支援をする。
- ・出勤時や退勤時の挨拶やお礼を出来る限りきちんと伝えることができるよう支援をする。
- ・作業中の気配り（委託先や利用者、掃除場所等）ができるように支援していく。
- ・メンバー同士のトラブルや作業中の怪我、健康状態等の問題は個別に迅速な対応をして解決をする。
- ・病気への感染対策として、入室前の検温、マスクの着用、手洗い消毒等の確認を徹底する。

- ・グループ就労メンバー内及び委託先にて、感染症が確認された場合には、直ちに、管理者及び委託先に報告をする。就労の継続については、委託先の指示のもと対応を行っていく。

3、移行活動

① グループ就労支援

シーサイドホーム・・・毎週水・日曜日 1月1日2日 公休日
つむぐ 勤務時間は、9:00～16:30
作業道具等はシーサイドホームが負担する。

② 単独就労支援

ハローワークへの本人訪問、研修、面接、実習等の機会を設定し、就労への移行を支援する。

③ 他機関との連携

ケースに応じて、障害者職業センターの職業訓練等を活用し、就労へ向けての支援を行う。また、合同面接会への参加も検討する。

④ 一般就労との併用利用について

平成28年5月に病院の清掃業務で一般就労をした2名については、週4日勤務の為、週1日は、B型利用を継続している。今後も、一般就労先との連携を図りながら、B型利用と併用していきけるように継続して支援をする。

4、留意

- ・緊急時の連絡先は、あおぞらセンターとする。(祝日等に関する作業対応の為)
- ・各々の業務について、担当者を配置し、委託先との連絡、調整を行う。
- ・担当者はメンバーへの支援、業務水準の維持に努める。問題が発生した際は管理者に報告し、迅速な対応を行う。

ライフ・ステージ 第2 あおぞら

(リサイクルショップ、あおぞらショップ、バザー、メール便)

就労B 第2 あおぞら

サービス管理責任者：下元 真人

1、人員(事業所全体)について

- ・利用者20名に対して、常勤職員4名(サビ管含む)の体制とする。

2、利用者活動

- ・ウィズコロナにおける経済活動の再開、新しい生活様式等、社会の動向を踏まえながら、国のガイドライン、法人のルールを守り、感染対策を徹底したうえでのメンバーの社会参加、活動を支援してゆく。
- ・メンバー個々のスキルアップを目標とし、新しいこと(色々な作業)への挑戦を支援する。

3、作業内容

① リサイクル販売の取り組み 売り上げ目標 3,000,000円

- ・チラシ配布を徹底し、新規来店客の獲得に取り組む。
- ・接客できるメンバーを増やし、メンバーが主体となって店舗管理ができるように支援する。
- ・防犯カメラを設置し、万引き対策、およびメンバーの安全確認を徹底する。
- ・フリマ等を利用し、古着の在庫を適正な量に調整する。(在庫過多になっている)

※平成5年度は コロナ禍により停滞した販売活動を立て直す(その準備に取り掛かる)一年としたい。

② 食品販売の取り組み 売り上げ目標 300,000円

- ・感染状況に配慮しつつ、学校等への営業活動を再開する。
- ・店舗の来客数がコロナ禍前に戻るまでは、商品ロスを考えて店舗在庫は置かず、注文販売とする。

③ 清掃作業 売り上げ目標合計 1,340,000円

内訳

アイフル店舗 売り上げ目標 100,000円

- ・週二回一か所、週一回二か所の合計三か所の取り組み。
- ・時間をかけ、丁寧掃除を心掛ける。

芸術学園 (週一回・一時間程度) 売り上げ目標 80,000円

- ・週一回、水曜日午後の取り組みとする。
- ・職員一名、メンバー5~6名での取り組みとする。

ケアハウス土佐 (週五日・半日) 売り上げ目標 960,000円

- ・高齢者施設ということもあり、感染対策を徹底して取り組む。
- ・月曜日~金曜日の午前中の作業とする。
- ・職員一名、メンバー六名での取り組みだが、定期的に職員、メンバーを入れ替えることで、全体のスキルアップを目指す。

- ・金曜日はお湯の入れ替えのため職員二名体制とする。
- ・メンバーの担当個所を入れ替えることで、個々のスキルアップを目指す。

ゴミ、不燃物の片付け、清掃、草引き等の請負 売り上げ目標 200,000円

- ・ウィズコロナの流れの中、徐々に活動範囲を広げてゆく。

④ ダンボール、金属等の回収 売り上げ目標 200,000円

- ・金属の価格が高値で安定している。古くなったスチール机、ロッカー等の回収に積極的に取り組む。

⑤ フリーマーケット（出店料収入） 売り上げ目標 250,000円

- ・ウィズコロナの流れの中、徐々に出店者を増やしてゆく。
- ・月一回を目標として開催する。

⑥ クロネコ便の取り組み 売り上げ目標 200,000円

- ・コロナ禍の収束に伴い配達冊数が増えることが期待できる。配達の効率化を支援する。

⑦ 自販機収入 売り上げ目標 70,000円

- ・自販機周囲の清掃を心掛ける。

作業総売り上げ目標 5,360,000円

※ ウィズコロナによる社会活動の再開に合わせて、販売部門の立て直しの年としたい。

工賃について

こうち福祉会

工賃については、各事業の授産収入から必要経費を差し引いたものを、各事業に従事したメンバーに配分をする。また、基本給については、工賃評価基準表に基づき10段階評価し、皆勤賞をとりいれ、支給している。評価については1年に1回行うものとする。但し、必要がある場合は、随時、評価の見直しを行う。

(目的)

第1条 この規定は、利用者に対して授産収入を工賃として配分するための基準を定めるものです。

(定義)

第2条 工賃とは、授産収入から授産事業に必要な所定の経費を差し引いたもので、給料として支給することにより、労働意欲を高め、生活に潤いを与え、地域生活への移行助長を図るものです。

(工賃の種類)

第3条 工賃の種類は、職能給、諸手当及び賞与とします。

- 1 職能給は評価基準表により算出されたものとします。
- 2 諸手当は、皆勤手当とします。
- 3 賞与は授産収入の状況に応じて支給します。

(支給額)

第4条 工賃は日給制で、支給額は、次により算出した額とします。

- 1 職能給 評価基準表により利用者の作業態度及び作業能力を評価した点数により設定し、設定された単価に出勤日数をかけたもので算出をします。
- 2 皆勤手当 月毎に支給をします。
- 3 ノロウイルス、インフルエンザ、コロナウィルスの欠勤支給
発症日より2週間内の作業日については日給を支給する。皆勤手当は欠給とする。尚、給食は3日間を徴収する。

(支給日)

第5条 毎月の工賃の支給は、月末を締め日とし、翌月5日を支給日とする。賞与は、7月と12月に支給する。但し、支給日が休日にあたる場合は、翌日を支給日とします。

(勤務)

第6条 1日の勤務時間は、各作業毎に設定。半日以内の遅刻、早退については、2分の1出勤とします。また、半日を超える遅刻・早退については欠勤とします。

(作業評価)

第7条 作業評価は、別表の工賃評価基準により評価するものとし、年度末（3月）に評価会議を開催して評価を行います。但し、特に必要がある場合は随時評価の見直しを行うものとします。
新規利用者の作業評価は、利用開始から3か月後に行うこととします。

(評価会議)

第8条 評価会議は、工賃評価基準をもとに審議するものとし、施設長、管理者、サービス管理責任者、作業及び生活支援者等により構成します。

(諸帳簿)

第9条 工賃の支給状況を常に明確にするため、次の簿冊を備えるものとします。

- 1 工賃集計表
- 2 作業日誌
- 3 作業評価表

(特別休暇)

第10条 利用者に次の各号のいずれかに該当する事情が生じた場合または願い出により、所定の日数の特別休暇が与えられます。また、特別休暇は有給とし、その間に休日があるときはこれを控除する。

- | | |
|-----------------------------------|------|
| 1 本人が結婚するとき | 5日以内 |
| 2 子が結婚するとき | 3日以内 |
| 3 配偶者が出産するとき | 3日以内 |
| 4 配偶者、父母、子が死亡したとき | 3日以内 |
| 5 兄弟姉妹、配偶者の父母が死亡したとき | 3日以内 |
| 6 祖父母、叔父叔母が死亡したときは無給とするが、皆勤の対象とする | 3日以内 |
| 7 これにかかわる欠食については請求の対象としない | |

(その他)

第11条 この規定に定めていない細部の事項については自治会及び職員会で協議の上で対処する。

附則

この規定は、平成21年4月 1日から施行する。

この規定は、平成22年4月 1日から一部改定して施行する。

この規定は、平成24年1月 1日から一部改定して施行する。

この規定は、平成26年7月 1日から一部改定して施行する。

この規定は、令和 3年7月30日から一部改訂して施行する。

クッション

ライフ・ステージ あおぞらセンター

評価ごとの工賃については下記の通りになっている。
各部署の令和4年度末の配分は下記の通りになっている。
給食費保障による実支給を行う。

*合計人数 14人

	評価10	評価9	評価8	評価7	評価6
基本月給(円)	26400	22000	18700	15400	12100
基本日給(円)	1200	1000	850	700	550
該当者		1人		1人	1人

	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
基本月給(円)	8800	6600	4400	2200	0
基本日給(円)	400	300	200	100	0
該当者	3人	2人	3人	2人	1人

野菜加工

ライフ・ステージ あおぞらセンター
蒼 空 舎
(あおぞらファクトリー)

評価ごとの工賃については下記の通りになっている。
各部署の令和4年度末の配分は下記の通りになっている

*合計人数 16人

	評価10	評価9	評価8	評価7	評価6
基本月給(円)	55,000	46,200	37,400	28,600	23,100
基本日給(円)	2,500	2,100	1,700	1,300	1,050
該当者	0人	0人	0人	1人	4人

	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
基本月給(円)	19,800	17,600	15,400	13,200	11,000
基本日給(円)	900	800	700	600	500
該当者	3人	3人	2人	0人	0人

内3名はよさこい工房で、工賃に関しては時給計算としている。(時給1500円～5000円)

てぶくろ

ライフ・ステージ **あおぞらセンター**
蒼空舎

評価ごとの工賃については下記の通りになっている。
各部署の令和4年度末の配分は下記の通りになっている。
給食費保障による実支給を行う。

*合計人数 21人

	評価10	評価9	評価8	評価7	評価6
基本月給(円)	28,600	24,200	19,800	15,400	13,200
基本日給(円)	1,300	1,100	900	700	600
該当者	1人	4人	3人	5人	4人

	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
基本月給(円)	11,000	8,800	6,600	5,500	4,400
基本日給(円)	500	400	300	250	200
該当者	2人	1人	1人		

畑ばたけ

ライフ・ステージ 蒼空舎

評価ごとの工賃については下記の通りになっている。
各部署の令和4年度末の配分は下記の通りになっている。
給食費保障による実支給を行う。

*合計人数 10人

	評価10	評価9	評価8	評価7	評価6
基本月給(円)	56,000	41,800	33,000	24,200	19,800
基本日給(円)	2,300	1,900	1,500	1,100	900
該当者		1人		3人	6人

	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
基本月給(円)	15400	11000	8800	6600	4400
基本日給(円)	700	500	400	300	200
該当者					

畑ばたけ

ライフ・ステージ **あおぞらセンター**

評価ごとの工賃については下記の通りになっている。

各部署の令和4年度末の配分は下記の通りになっている。

給食費保障による実支給を行う。

*合計人数 7人

	評価10	評価9	評価8	評価7	評価6
基本月給(円)	28600	24200	19800	16500	13200
基本日給(円)	1300	1100	900	750	600
該当者		1人			2人

	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
基本月給(円)	11000	8800	6600	4400	2200
基本日給(円)	500	400	300	200	100
該当者		1人		2人	1人

G就労

ライフ・ステージ 蒼 空 舎

評価ごとの工賃については下記の通りになっている。

各部署の令和4年度末の配分は下記の通りになっている。

※一般就労併用の2名を含む。

*合計人数 6人

	評価10	評価9	評価8	評価7	評価6
基本月給(円)	35,200	33,000	30,800	28,600	26,400
基本日給(円)	1,600	1,500	1,400	1,300	1,200
該当者				2人	2人

	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
基本月給(円)	24,200	22,000	19,800	17,600	15,400
基本日給(円)	1,100	1,000	900	800	700
該当者	1人	1人			

あおぞらショップ

ライフ・ステージ 第2あおぞら

評価ごとの工賃については下記の通りになっている。

各部署の令和4年度末の配分（見込み）は下記の通りになっている

*合計人数 20人

	評価10	評価9	評価8	評価7	評価6
基本月給（円）	33000	29700	26400	24200	22000
基本日給（円）	1500	1350	1200	1100	1000
該当者					3人

	評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
基本月給（円）	19800	17600	15400	13200	1100
基本日給（円）	900	800	700	600	500
該当者	3人	6人	8人		

令和4年度 工賃実績・令和5年度 工賃目標

蒼空舎：就労継続支援B型

事業	員数	工賃実績 (令和4年度)	工賃目標 (令和5年度)
畑	10人	25,746円	27,000円
手袋	12人	18,545円	20,000円
野菜工房	16人	29,211円	30,000円
清掃	4人	29,211円	30,000円
一般就労併用者	2人	3,465円	3,600円
平均		24,718円	26,000円

第2あおぞら：就労継続支援B型

事業	員数	工賃実績 (令和4年度)	工賃目標 (令和5年度)
第2あおぞら	20人	22,220	23,000
平均	20人	22,220	23,000

給与を労働時間数で割り、5時間労働、22日勤務で計算している。

(給与÷労働時間数×5時間×22日+皆勤手当1000円)

給食弁当

ライフ・ステージ 蒼空舎
あおぞらセンター
第2あおぞら

調理員：久米ゆかり

1、年間計画

蒼空舎厨房では、毎日120食前後のお弁当を3人で調理し、各施設へ配達しています。

給食部年間計画としては、4月に栄養所要量の算定を予定し、年1回嗜好調査を実施します。毎月調理従事者は腸内細菌検査を実施します。(代替で入ってくれる人にも実施します。)

嗜好調査に関しては、全てを受け入れる訳にはいきませんが、嫌いなものは少量からはじめ偏食がなくなるよう支援します。アレルギーに関しては、確実に除去食での対応を実施します。(アレルギーの人、10名)

これから増えつつある利用者さんに対応していくための献立や配膳方法、調理方法は随時話し合いをして無理なく工夫していきます。

2、地産地消

畑班と話し合いながら、自家農園(蒼空舎 畑)で取れた新鮮野菜や、四季折々の旬の食材をできるだけ献立に多く取り入れるようにしています。又、他の食品についても、国産にこだわり今後も安全な作物を多く使っていきます。あおぞらの加工品も多く取り入れ食材費の節約に努めるようにします。

3、衛生について

「HACCP に沿った衛生管理」の制度化に伴い、衛生管理の実施状況の記録、保存等を行い食中毒の予防に努めていきます。食品の納入時には、表面温度もチェックし、食品の加熱加工冷却温度を計り、記録していきます。床や器具、テーブルは毎日清掃やアルコール、熱湯消毒をし安全衛生には十分気を付けて作業を行っています。又、個人の衛生点検表を記入し、常に意識を持って仕事にあたります。食堂はコロナ対策としてアクリル板を設置しアルコール消毒し感染予防に努めていきます。

4、環境、防災への取り組み

揚げものの油に使用した廃油は、外部委託によって、飼料や洗剤の原材料にリサイクルします。生ゴミは、畑の肥料にして、減らすように努めています。

災害時等における備蓄品(米10袋)を備えるようにします。

5、ICT化の導入

ICTの導入により、各事業所からのお弁当の食数を共有し、1日の食数の合計や、1ヶ月の利用者の食数などの集計ミスを防ぎ、事務作業を効率化していきます。FAXを利用しなくなるため、紙の削減にもつなげていきます。

給食に関する基本情報

「バランスの取れた食事と安心の食材」

- ・利用者さんの身体状態を把握、毎日の献立が年齢別、性別、労作に見合った内容となるよう工夫努力をし、できるだけ望ましい食事の提供に努めていきます。
- ・季節のものを多く取り入れ、彩りはもちろんのこと栄養面についても考えていきます。メニューも飽きが来ないように少量多種を目標に献立を考え、できる範囲で行事食もとり入れ美味しく安全な弁当作りをしていきます。又、節季には季節感を大事にした特別弁当を用意します。
コロナ緊急時には、緊急対策弁当で居住事業所と連携対応します。
- ・誤嚥事故防止対策に関して、引き続き食材の調理方法を工夫していきます。
- ・献立を各家庭、グループホームに配布し、1日3食バランスの取れた食事の参考にしてもらいます。

グループホーム<共同生活援助・包括型>

ライフ・タウン あおぞらホーム

ライフ・タウン 蒼空舎

サービス管理責任者：杉本 郁

令和5年度事業の概要

1. 事業目的

共同生活援助（包括型）事業の円滑な運営管理を図るとともに、共同生活住居において、利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な障害福祉サービスを提供することを目的とする。

2. ライフ・タウン23ホーム配置

—— ライフ・タウンあおぞら ——

① あおぞら第一	高知市朝倉甲	ユニオンハイツ	H11年10月	(定員5名)
② あおぞら第二	高知市朝倉甲	ユニオンハイツ	H11年10月	(定員4名)
③ あおぞら第三	高知市朝倉甲	ユニオンハイツ	H12年10月	(定員4名)
④ さわやか	高知市朝倉甲	法人住宅	H13年10月	(定員5名)
⑤ ふれあい	高知市神田	県営住宅	H14年10月	(定員4名)
⑥ 若いづみ	高知市朝倉丙	マンション	H18年4月	(定員4名)
⑦ ひまわり	高知市朝倉甲	ユニオンハイツ	H20年10月	(定員3名)
⑧ つくし	高知市朝倉甲	ユニオンハイツ	H21年4月	(定員6名)
⑨ ふきのとう	高知市朝倉甲	ユニオンハイツ	H21年4月	(定員4名)
⑩ たんぽぽ	高知市朝倉丙	マンション	H21年4月	(定員3名)

⑪ 野の花	高知市神田	リードハウ	H21年10月	(定員5名)
⑫ ほの風	高知市神田	リードハウス	H22年3月	(定員4名)
⑬ みづき	高知市朝倉甲	ユニオンハイツ	H23年1月	(定員6名)
⑭ 野うさぎ	高知市朝倉甲	法人住宅	H23年7月	(定員5名)
⑮ よさこい	高知市朝倉甲	グレートハイツ	H23年11月	(定員5名)
⑯ ひだまり	高知市朝倉甲	グレートハイツ	H23年11月	(定員4名)
⑰ なごみ	高知市朝倉甲	グレートハイツ	H25年3月	(定員4名)
⑱ ひづき	高知市鴨部	ウエストタウンモリタ	H25年3月	(定員6名)
⑲ ときわ	高知市鴨部	シティ次郎丸	H25年3月	(定員4名)
⑳ ひより	高知市朝倉甲	グレートハイツ	H26年3月	(定員4名)
㉑ まほら	高知市朝倉甲	グレートハイツ	H26年3月	(定員4名)
㉒ あかり	高知市朝倉甲	グレートハイツ	H27年3月	(定員4名)
㉓ のどか	高知市朝倉甲	グレートハイツ	H27年3月	(定員4名)

— ライフ・タウン蒼空舎 —

① オリーブの家	高知市春野町平和	法人住宅	H29年11月	(定員4名)
② オリーブの丘	高知市春野町平和	法人住宅	R2年1月	(定員5名)

定員108名

3. 支援者の体制

管理者1名、サービス管理責任者5名、25ホームに専任の共同生活支援員23名、代替兼任の家庭支援員11名、夜間巡回支援員27名、日常生活支援員専任7名 委託看護師5名 他

4. 節季・生活の彩り

新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、徐々に行事を再開していきます。
屋外での全体の行事を実施しつつ、少人数での外食など実施していきます。

5. 見学・体験入居・ショートステイ

特別支援学校等の校外学習・PTA等の見学の受け入れグループホームの空室を活用した体験利用などを実施し、安心して地域生活が継続できるよう支援します。

6. 夜間支援・防災警備

夜間体制については支援対象者数4人に夜間支援員1人を配置し、夜間の見回りを行うと共に事業所に宿直者2名を置きます。

警備会社のオンラインセキュリティサービスを採用し24時間の防災監視について委託。異常を感知した際は、警備会社コントロールセンターに自動通報され、警備会社の緊急対応員が最寄りの発進基地より現場急行し必要な処置を行うとともに、施設管理者及び宿直者へも連絡されるシステ

ムとします。

7. 防災計画・訓練

年4回【5月・8月（水害）11月・2月（地震訓練）】の防災訓練を実施し、日頃から避難路・避難場所の確認など防災意識を持って頂き利用者が速やかに避難できるように取り組んでいきます。併せて防災設備が、有事に際し有効に機能するように日常の保守点検を行います。

夜間の消防立ち合い訓練の実施

1週間分の災害食・水の確保。賞味期限を把握し朝夕利用し新たな災害食を確保しています。

8. 職員資質の向上と人材の育成

Zoomを活用したオンライン研修を中心に、福祉に従事する職員に求められる基本姿勢、専門的知識、意識改革等職員の資質向上と組織が必要とする人材が効果的に育成できる研修会に参加します。

- ・初任職員研修
- ・障害者虐待防止研修
- ・感染症予防研修
- ・強度行動障害支援者研修
- ・接遇研修
- ・服薬管理
- ・サービス管理責任者更新研修
- 他

9. 家賃補助

特別支援学校等卒業後の無年金者や、就労移行を目指しているが、すぐには収入が得られない方などに法人独自の家賃補助を行います。

10. 障害分野における ICT の導入（継続）

- ・サービス提供実績記録・週間報告書その他煩雑な事務処理及び本部への連絡・報告に ICT を導入、簡素化・一元化することで、情報を瞬時に共有でき、余剰時間で利用者支援により多く従事します。
- ・法人内の日中活動先とのより緊密な連携が取れる事により、連絡・報告の抜かりや認識のズレや謝りを減少させます。
- ・2Wに一度のGH会に於いて、90分を要し各ホームの報告会となっています。予め情報を共有することにより、これらは割愛して、議題を重要なケースに絞って協議・研鑽する機会を増やします。
- ・タブレット利用によりペーパーレスを目指します。

11. 重点課題

- ① R1年から、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、グループホーム生活の様式が大きく変わり、自粛した生活も長引きました。本年度も、新型コロナウイルス感染症の感染

状況を踏まえ行事等を再開。感染予防に留意しながら解放していき「ひとり一人の余暇活動の充実」を目指していきます。

② 支援の充実

利用者さんが共同生活の中で自分らしく、落ち着いて生活ができるように支援を行っていきます。

- ・メンバーが自己選択・自己決定ができる
- ・利用者一人ひとりの具体的な援助、支援方法の確立

③ BCP（事業継続計画）作成

- ・感染症や災害への対応力強化
- ・事業計画の策定等
- ・従業者に対する研修及び訓練の実施

④ 障害者虐待防止の更なる推進

- ・従業者への研修の実施
- ・虐待防止委員会の開催と結果の周知
- ・虐待防止等のための責任者の設置

⑤ 身体拘束等に関する基本的な取り扱い

- ・やむを得ず身体拘束等を行う場合の記録
- ・身体拘束等適正化検討委員会の開催と結果の周知
- ・身体拘束等の適正化のための指針整備
- ・従業員への研修実施

⑥ ハラスメント対策

- ・職場におけるハラスメントの内容及び職場におけるハラスメントを行ってはならない旨の方針を明確化する。
- ・策定した方針を元に職員へ周知・啓発を行う。
- ・ハラスメントに関する相談窓口の設置などの体制づくりを行う。

1 2. 日中サービス支援型共同生活援助「春乃群青」春野地区への建設

場所	高知市春野町芳原字松ヶ内788-2
事業	日中サービス支援型共同生活援助（グループホーム3棟） 短期入所の併設 指定生活介護（日中活動サービス事業所）
構造	鉄骨作り2階建（延べ床面積：999.59㎡）

見積 424, 528千円

ライフ・タウン蒼空舎「オリーブの家」「オリーブの丘」に入居する利用者さんたちも、生活の根を掘りつつ、春野町平和団地の一員として日々の営みを握りしめています。そんな春野町は私たちにとって愛着のある場所となっています。

この度のライフ・タウン「春乃群青」事業の建設希望地である春野町芳原は、南に少し足を運ぶと太平洋が望め、半径2～3km内には高知県立障害者スポーツセンター、高知県立春野総合運動公園、高知市春野文化ホールピアステージがあるなど、比較的近場に利用者さんの余暇活動を豊かにする社会資源がそろっています。地域に役立つ社会資源となれるよう、以下の取り組みを目指します。

① 春野町を拠点とした運営を目指します。

春野町には、自法人が運営するグループホーム「オリーブの家」「オリーブの丘」、就労継続支援 B 型事業所「蒼空舎」その活動場所である畑やハウスが点在しており、市街化調整区域でもある自然豊かなこの地域で、蒼空舎と共に農業に関わり、地域と共に誰もが安心して住み続けられる町づくりを目指します。

② 近隣施設と連携し、24時間支援を実現します。

従来のグループホームでは、夜間支援対応が難しかったメンバーの安心した地域生活を実現します。

また「はるの大好き！元気すずめ会」（市社協、包括支援センター、特別養護老人ホーム、地域住民等で構成する任意団体）、相談支援事業所、行政とも情報共有し、「ほおっちょけん相談窓口」の持続的な取り組みを行い、地域（在宅）で生活する障害者の緊急一時的な生活の場を提供します。

③ 安心できる医療体制を確立します。

近隣にある「リハビリテーション病院 すこやかな杜」（内科、整形外科、脳神経外科）谷歯科医院と提携し、緊急時のスムーズな受診など、メンバーの健康管理に努めます。その他「こころのセンター」「らくだクリニック」とも協力医療機関として提携しており、適切な対応がとれる体制を整えていきます。

④ 余暇の充実を図ります。

春野総合運動公園の散策や障害者スポーツセンターでの季節に応じたスポーツ、春野文化ホールピアステージでの文化的な活動など、地域にある施設を積極的に活用し、余暇活動の充実を図ります。

⑤ 地域の活動にも積極的に参加をします。

地域の自治会活動に参加をさせていただき、地域との交流を深めます。令和3年度の「夢プロジェクト」申請活動を通じて、芳原地区自治会とは意見交換の場を何度か持つことがで

きています。

災害時には、公民館での避難生活が難しい障害者の福祉避難所としての役割を果たします。防災井戸を設置し、有事の際には活用します。

相談支援事業

ライフ・サポート あおぞら

指定特定相談支援事業・障害児相談支援事業

指定一般相談支援事業(地域移行支援・地域定着支援)

相談支援専門員：林 幸孝

1、人員について

- ・相談支援専門員 4名（専従2名、兼務2名） サポート支援員 1名
専従1名退職に伴い、上記の体制となる。対象者を専従や兼務で担当し、サポート支援員に引き継いでいけるよう一部は2名体制として行っていく。
- ・研修や各自治体が実地している連絡会や会議等に参加し、他事業所や業種の方々との連携を図ると共に相談支援専門員としてのスキルアップを行っていく。また、事業所内でも勉強会を適宜行うなどして底上げを図っていく。
- ・対象者としては県下全域を範囲として福祉サービスが利用できる成人の方とする。

2、業務内容

(指定特定・障害時相談支援事業)

- ・当事業所が対象者に対して必要な「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」に基づく指定相談支援サービスを提供する。
- ・当事業所と利用契約を行っている対象者のサービス利用計画書を作成し、計画に伴うモニタリングを実施、サービス更新や新規サービス利用等に伴い行政への申請手続き等を行っていく。
- ・新規サービス利用や更新、モニタリング時には、自宅や各事業所等へ訪問して面談を行い、振り返りやアセスメントを実施し、現在の状況や利用者及び家族の希望等する生活や解決すべき課題などを把握する。また、必要な福祉サービスや社会資源等に繋ぎ、各事業所や行政とも連携を図っていく。
- ・令和2年4月から開始しているいの町の委託計画相談も継続していき、行政や地域の事業所等とも連携して計画相談を実施していくと共に訪問等で抽出された地域での課題等も情報共有していく。また、委託人数も増えているため効率化を図っていく。
- ・事業所内で勉強会を月1回程度行い意識の統一化、知識の向上などを行っていき、困難事例など困りごととも共有していく。

(指定一般相談支援事業)

- ・入所施設に入所している障害者、または精神科病院に入院している精神障害者の対象者と当事業所と利用契約を行い、訪問による面談等を行い、本人及び家族の意向や医師や事業所からの助言等を踏まえて住居の確保、その他の地域生活に移行するための活動に関する支援、地域移行のための障害福祉サービス事業所等への同行支援等を行う。
- ・障害福祉に関する様々な問題について、障害者や家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や福祉サービス利用に至るまでの相談ほか、権利擁護のために必要な援助を行う。

3. 留意

- ・業務時間外でも緊急の対応や連絡体制が取れるよう、携帯で対応する。
- ・主任相談支援専門員が退職に伴い、主任相談支援専門員配置加算が消滅され、強化型が下がることで減算となる。事業収入は減算となるが、まずは体制を整え事業の安定化を目指していく。

障害者支援活動

社会福祉法人こうち福祉会

- ・事業別支援会議を月 1 回以上、運営委員会を月 1 回開催し、情報の共有化、支援技術の向上を計ります。
- ・家庭との連携による支援体制の強化に勤めます
- ・利用者の置かれている環境及び、日常生活全般の状況等を通じて利用者及び、その家族が希望する生活や課題を明らかにするため、アセスメントを丁寧にとっていきます。適切な支援内容の把握に基づき到達目標を設定し担当者会議を経て個別支援計画を作成します。また、6 カ月以内にモニタリングを行い必要時に応じて、支援計画の変更を行っていきます。
- ・法人研修として、専門知識を持って支援にあたれるよう、強度行動障害研修を行っていきます。また、虐待防止や権利擁護の研修にも参加し、年 1 回以上は身体拘束委員会や虐待防止委員会を開催していく。

利用者の地域生活活動

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自治会（基本的に毎月 1 ～ 2 回実施する。） ・中部地区施設交流会 ・旅行（年 1 回、日帰り旅行又は一泊旅行を実施する。） ・もちつき大会 ・プールや川遊び ・創作活動 ・あおぞらで歌おう ・体操教室（あおぞら体操、いきいき 100 歳体操） | <ul style="list-style-type: none"> ・障害者作品展 ・カラオケ ・流しそうめん ・BBQ ・映画鑑賞 ・花見 ・スポーツ大会 |
|--|--|

※上記以外にも生活のメリハリをつけるためにも四季折々の行事は取り組んでいく。

安全・衛生活動

- ・防災避難訓練
年3回実施（消防署立会い・1回、自主訓練・2回）
- ・健康診断
年1回実施
- ・給食、食事指導
咀嚼、偏食の指導
歯磨き指導
- ・自転車点検 月1回実施
- ・衛生指導 感染症の予防（手洗い、うがい等）
施設内の消毒、検温

職員構成

管理者	5名（兼任）
事務長	1名（兼任）
サービス管理責任者	9名 （あおぞら・1名、蒼空舎・2名（兼任）、第2あおぞら・1名（兼任）、 あおぞらホーム・4名、ライフ・タウン蒼空舎1名）
相談支援専門員	4名（専従2名、兼任2名）
相談支援助手	1名
支援員	18名 （あおぞら・6名、蒼空舎・9名、第2あおぞら・3名）
共同生活支援員	22名
日中生活支援員	11名
看護職員	5名（兼務1名）
調理員	3名 （あおぞら・1名（栄養士）、蒼空舎・1名（栄養士）、第2あおぞら・1名）
計	77名（67名）

嘱託医	1名
会計士	1名
講師（体操、ちぎり絵、合唱）	3名
家庭生活支援員	12名

夜間支援員・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25名